

人文学・社会科学振興に関連する主な予算事業（令和6年度予算(案)）

* ()内は前年度予算額

資料2
 科学技術・学術審議会
 学術分科会
 人文学・社会科学特別委員会
 (第21回)
 令和6年1月26日

- ① 社会的課題への対応等も見据えた、人文学・社会科学が中心となったプロジェクト型共同研究の推進
- ② 人文学・社会科学の研究基盤を支える、学術資源のデータ化やデータ基盤等の開発・整備、共同利用・共同研究の推進

① 社会的課題への対応等も見据えた共同研究の推進

◆ 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業

1.5億円 (1.8億円) ※JSPS運営費交付金中の推計額

未来社会が直面するであろう諸問題に係る有意義な応答を社会に提示することを目指す研究テーマを掲げ、人文学・社会科学から自然科学などの多様な分野の研究者や社会の多様なステークホルダーが参加して、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指す。

※この他、人文学・社会科学研究の推進に関わる施策例

- ・科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 (SciREX事業)
- ・戦略的創造研究推進事業 (新技術シーズ創出)

など

R5 採択テーマ一覧 (学術知共創プログラム)

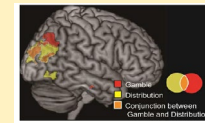
- **コロナ危機から視る政策形成過程における専門家のあり方**
(大竹文雄・大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授)
- **重層的アクターの協調を生み出す気候変動ガバナンスの構築 -低炭素水素事業に着目して**
(石川知子・名古屋大学大学院国際開発研究科教授)
- **偽情報と政治的分断に関する東アジア諸国を中心とした包括的研究**
(粕谷祐子・慶應義塾大学法文学部教授)
- **身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現**
(床呂郁哉・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)

過去のプログラムの成果例

領域開拓プログラムの例

「社会価値」に関する規範的判断のメカニズムを脳画像計測など、行動・認知・神経科学の先端手法を用いて検討。

H25採択 亀田達也 (東京大学)
 「社会価値」に関する規範的判断のメカニズムとその認知・神経科学的基盤の解明



右側頭頂接合部の活性を示すfMRI実験の結果を標準的な脳イメージで可視化した図

グローバル展開プログラムの例

人の移動、経済活動等の歴史地理情報と時間情報を関連させた、歴史空間情報システムを駆使し、世界的に例の少ない先端的歴史分析を可能に。

H25採択 水島司 (東京大学)
 アジア歴史空間情報システムによるグローバル・ヒストリーの研究



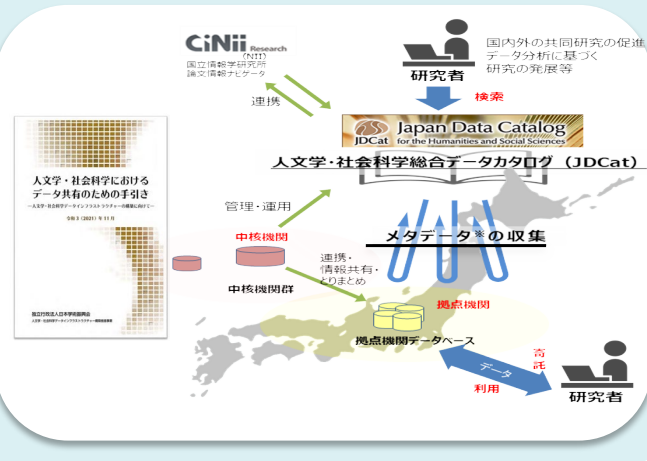
1770年代の南インド地域における官吏の分布
 本研究の成果はNHK高校講座世界史においても活用される。
 ➡ 高等学校教育にも貢献

② 人文学・社会科学の研究基盤を支える、学術資源のデータ化やデータ基盤等の開発整備、共同利用・共同研究の推進

◆ 人文学・社会科学データインフラストラクチャー強化事業

0.8億円 (1.1億円) ※JSPS運営費交付金中の推計額

人文学・社会科学のデータ共有、利活用を促進するデータプラットフォーム等の基盤の充実・強化を図る。



◆ 人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業

1億円 (新規)

- [1] デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアムの運営
 国際的な人文学のデジタル化の進展を踏まえ以下を推進
- ・国内の人文系学術機関の協働体制の構築
 - ・国際規格に対応した人文諸学のデータ規格の調整・整理
 - ・データ構築・利活用等に通じた研究者育成

```
<p>
<persName corresp="#メロス">メロス</persName>は激怒した。必ず、かの
<persName corresp="#ディオニス">邪智暴虐 (じゃちぼうざく)
の王</persName>を除外しなければならぬと決意した。
<persName corresp="#メロス">メロス</persName>には政治がわからぬ。
<persName corresp="#メロス">メロス</persName>は、村の牧人である。
笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。
</p>
```

TEIに準拠した記述 (人文情報学研究所)

- [2] 我が国の人文学・社会科学の研究動向の可視化
- ・「書籍」についてのモニタリング手法の開発等
 - ・社会的インパクトやデータベース開発等の研究基盤構築への貢献など、新たな成果指標の検討 など

◆ 共同利用・共同研究の推進

- **大学共同利用機関法人**
 人間文化研究機構において、人間の文化活動や人間と社会及び自然との関係に関する研究を推進。
- **「データ駆動による課題解決型人文学の創成」 (大規模学術フロンティア促進事業) (国文学研究資料館)**
 「日本語の歴史的典籍」の画像データ (27万点) のAI利活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充など、国文学を中心としたデータインフラを構築し、様々な課題意識に基づく国内外・異分野の研究者との共同による大規模データを活用した次世代型人文学研究を開拓する。



IIIFビューワーによる複数画像比較 (国文学研究資料館)

背景・課題

- 良質な学術データの開発・整備やネットワーク化、大量のデータを利用した研究の効率化・加速化や巨視的研究の実施、市民等のデータ活用促進など、諸外国は人文学研究のデジタル化を積極的に推進。「デジタル・ヒューマニティーズ（DH）」と称する世界的動向への対応や総合知の創出に資する観点から、国内の学術機関の協働体制を構築し、分野に適したデータ規格のモデルガイドラインや人材育成プログラムの開発など、DX化のための基盤開発が必要。
- 総合的・計画的な人文学・社会科学の振興に向けて、我が国全体の人文学・社会科学の研究動向や研究成果を把握するためのモニタリング手法の確立が喫緊の課題。研究成果の主な発表媒体として、個人の研究成果を体系化した「書籍」が重要な位置を占めており、論文データだけでなく、書籍データを活用した研究動向や成果の調査・分析が必要。加えて、社会・経済・文化等に中長期的・多面的に生じる人文学・社会科学の多様な社会的インパクトやSNS等を活用した成果発信等に係る指標についても検討が必要。

事業の概要

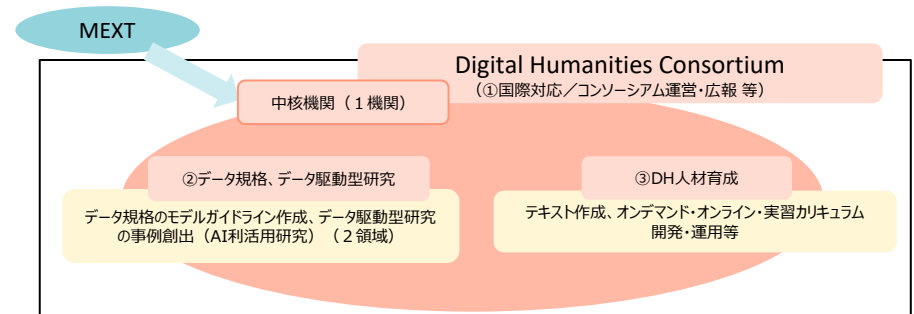
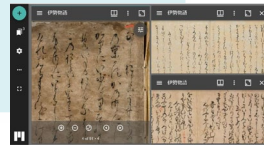
（事業期間：令和6年度～令和8年度）

【事業の目的】 我が国の人文諸分野の研究DXを推進するため、国内学術機関で構成する「デジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアム」を立ち上げ、協働体制を構築して、データ基盤の開発を推進する。併せて、我が国の人文学・社会科学の研究活動の成果をデータ分析により可視化・発信するための研究開発を実施する。

I. データ基盤の開発に向けたデジタル・ヒューマニティーズ・コンソーシアムの運営

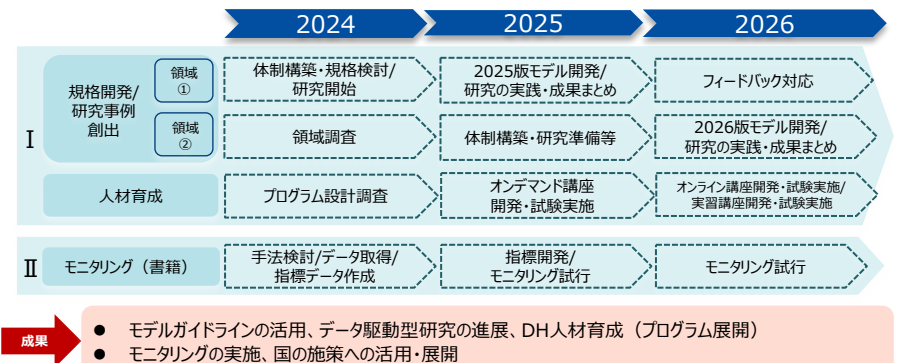
※国内諸機関で協働体制を構築し、国際対応や連絡調整会議の運営、以下の取組等を実施

- ① 人文諸分野のデータに係る国際規格対応
 - ② 人文諸分野のデータ規格のモデルガイドライン策定、データ駆動型研究の事例創出
 - ③ 若手研究者等を対象とした、人文諸学の特性に応じたデータ構築・AI利活用研究等に関する人材育成プログラムの開発・実証
- 国から中核機関に委託（1機関・64百万円）



II. 人文学・社会科学におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発 ※モニタリング指標の開発に向けた調査・分析

- ① 「書籍」に係る研究成果を可視化する指標の開発に向けた調査・分析
 - ② 多様な社会的インパクト、SNS等の「Altmetrics」、データベース構築等の研究基盤整備への貢献等の新たな指標の検討
 - ③ 国際発信に係る指標の検討や諸外国との研究動向比較
- 国から大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人等に委託（1機関・32百万円）



- 第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）：『人文学・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用がますます重要』
『人文学・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する』
- 「経済財政運営と改革の基本方針2023」（令和5年6月16日閣議決定）：『「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（略）を着実に実行する。』『研究の質や生産性の向上を目指し、（略）情報インフラの活用を含む研究DXの推進』
- 「統合イノベーション戦略2023」（令和5年6月9日閣議決定）：『人文学・社会科学も含む総合知の活用が重要』『研究データの戦略的な収集・共有・活用に関する取組を加速するとともに（略）人文学・社会分野等も含めた他分野と同様の取組を展開する』